

## 子宮体癌で手術を受けられ、手術前に MRI 検査を受けられた患者さんの 検体・情報を研究に利用することについてのお知らせ

小倉医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。本研究に関するご質問等がありましたら下記の[当院の問い合わせ窓口]までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、当該研究に検体・カルテ情報が用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の[当院の問い合わせ窓口]までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] T2 強調画像および拡散強調画像を用いた子宮体癌の筋層浸潤深達度推定に関する Deep Learning 研究

[当院の研究責任者] 臨床検査科・産婦人科 元島 成信

### [研究の背景]

子宮体癌は女性に比較的多い子宮の悪性腫瘍であり、腫瘍が子宮筋層のどの程度まで入り込んでいるか（筋層浸潤の深さ）は、手術の方法やリンパ節郭清の必要性を決めるうえで重要な情報です。現在、術前の評価には MRI が広く用いられていますが、子宮の形や状態には個人差があり、画像の見え方もさまざまのため、読影医によって判断が分かれる場合があります。

近年、コンピュータが多数の画像からパターンを学習する「ディープラーニング」という技術が進歩しており、画像診断の一助として期待されています。本研究では、過去に撮影された MRI 画像を用いて、この技術が子宮体癌の筋層浸潤の評価にどの程度役立つかを検討します。

### [研究の目的]

本研究では、過去に当院で子宮体癌の手術を受けられた患者さんの、術前骨盤 MRI 画像と手術後の病理診断結果を匿名化して解析し、ディープラーニングを用いたコンピュータモデルが筋層浸潤の深さ（子宮筋層の半分以内か、それより深いか）をどの程度正確に判定できるかを調べます。また、その診断性能を放射線科医の読影結果と比較し、将来的に診断のばらつきを減らす支援ツールとして活用できるかを検討することを目的としています。

### [研究の方法]

- 対象となる患者さん

(臨床研究に関する公開情報/単施設実施用)

2020年1月から2025年12月までの間に、小倉医療センターで子宮体癌(類内膜癌)に対する子宮摘出術を受けられ、術前に骨盤MRI検査が行われた方

●研究期間：西暦2026年2月16日から西暦2028年12月31日

●利用する検体、カルテ情報

検体：術前に撮影された骨盤MRI画像(T2強調像、拡散強調像、ADCマップ、造影T1強調像(施行されている場合))

カルテ情報：

- ・年齢
- ・組織型(子宮体癌のタイプ)
- ・FIGO進行期
- ・子宮筋層浸潤の深さ(術後病理診断の結果)
- ・リンパ節転移の有無
- ・手術方法
- ・血清腫瘍マーカー値(CA125など)

●検体や情報の管理

検体や情報は当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[当院の問い合わせ窓口]

国立病院機構小倉医療センター

臨床検査科・産婦人科 元島 成信

〒802-8533 北九州市小倉南区春ヶ丘10番1号

電話 093-921-8881